令和５年度　浅草小学校授業改善推進プラン

第５学年

1　浅草小探究モデルにおける児童の実態

Ⅰつかむ、見通す	A 課題作り	提示された資料や事象から自ら問いをもち、意欲をもって解決に向かえる児童がいる反面、文章の長さや問題数の多さが壁となり、問いをもつ以前で意欲をもてずにいる児童もいる。
	B 学習計画を立てる	全体での交流がきっかけとなり、見通しをもったり自分なりの計画を立てたりできる児童が多い。
Ⅱ考える、つなげる	A 自分の考えをもつ	自分の考えをもち、表現しようという意欲は感じられる。しかし、考えをどのように表現するかについては個人差が大きく、「話す」と「書く」のどちらでも他者に考えを伝えられる児童は少ない。また、台東区総合学力調査の結果を見ると、国語の「文章を書く」の設問に対し、無解答の児童が多かった。特に書くことについて苦手意識をもっている児童が多いことが伺える。
	B 他者の考えを知り関連付ける	友達の考えに興味をもち、対話を楽しんでいる様子が多くの児童に見られる。しかし、互いの考えを出し合うことで終結してしまうことが多く、そこから新しい考えを構築したり、一般化したりするまでには至っていない。
Ⅲ創る、活かす	A まとめる振り返る	学習を自分の言葉でまとめる際、めあてに基づいて自身の学びを振り返ることができる児童が増えてきたが、したことの想起で終わってしまう児童も少なくない。
	B 活かす	授業内で新しい問題場面に出合った時には、既習を活かそうとする児童が増えてきているが、区の学力調査の結果を見ると、どの教科でも「活用」の正答率が低い。一人で新しい問題に出合った時に、既習を想起できない児童が多いことが分かる。

2　目指す児童の姿

①学びに取り組む姿	②対話の姿	③探究する姿
自ら課題を見付け、ねばり強く学習に取り組む。	目的意識をもって自他の考えを比べ、互いのよさを活かしながら納得解を見いだす。	自己の学びを振り返り、自己の変容を自覚するとともに、新たな課題に踏み出す。

3　授業改善に向けての具体的な方策

Ⅰつかむ、見通す	A 課題作り	提示する教材や提示の仕方を工夫することで、児童相互に違った考えが生まれるようにする。その違いをきっかけに児童一人一人が問いを自分事としてとらえられるような授業展開をする。
	B 学習計画を立てる	児童から生まれた疑問や問いから課題をつくり、最終的にたどり着きたいゴールを明確にする。何を解決するために、どのような計画で学習を進めるのか、学級全体で共有できる時間を確保する。
Ⅱ考える、つなげる	A 自分の考えをもつ	考えをもつことが苦手な児童には、選択肢の中から選び、選択の理由を考えさせることから始める。グループ対話では、全員の発言の機会を確保する。
	B 他者の考えを知り関連付ける	友達の考えを聞いてみたいと思う場面を意図的に設定する。友達の考えからつなぐ、比べる、組み合わせて新たな考えを作る発言を価値付けていくことで、他者の考えを知り、関連付ける良さを味わわせるようにする。
Ⅲ創る、活かす	A まとめる振り返る	考えをもつ場面を作って終わりではなく、再考する場面を意図的に設定する。また、学習の振り返りを授業内外で共有できる場を設定する。
	B 活かす	学習で用いた「見方・考え方」を掲示し、次の学習に活かせるようにする。